

オランダ

ロッテルダム日本人学校

前ロッテルダム日本人学校 教諭
虻田郡ニセコ町立ニセコ中学校 教諭 岩谷紀代美

1, 世界の中のオランダ

(1) オランダの名称と国土・人口・国旗

オランダの正式名称は“Koninkrijk der Nederlanden”（オランダ王国）、ネーデルランドとは「低い土地」を意味しています。首都はアムステルダムで、建国以来ホランド州（現在の北ホランド州と南ホランド州）が中心であったため、Hollandとも呼ばれています。国土面積は約 4.1 万平方キロメートルで、日本の九州とほぼ同面積です。そして人口は 1630 万人（2005 年）、人口密度は 457 人で日本より高く、また世界一平均身長の高い国でもあります（男性 182.5cm 女性 170.5cm）。王国という名の通り、国王がいます。現在はベアトリックス女王陛下が国王です。オランダの国旗は赤、白、青の三色旗ですが、これは独立戦争に由来するもので、赤は国民の勇気、白は信仰心、青は祖国への忠誠を表しています。

(2) オランダの位置

オランダはヨーロッパ西部にあり、日本からは飛行機で11時間以上かかる遠い所にあります。日本との時差は 8 時間です。

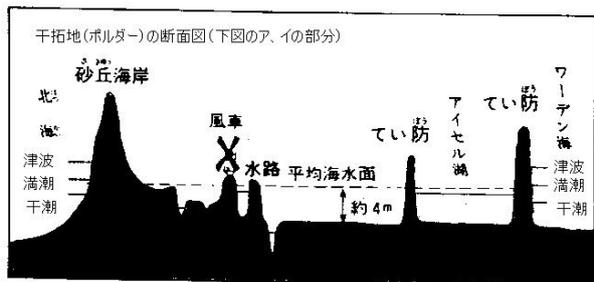
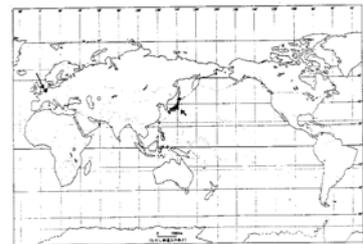
（サマータイム時は 7 時間：3 月最終日曜～ 10 月最終日曜）

(3) オランダの周りの国

オランダは、ドイツ・ベルギーと国境を接しています。また、北海をはさんで、イギリス、デンマーク、ノルウェーに隣りあい、半径1000kmの円の中にヨーロッパの主要な国がほとんど入ってくるという、まさにヨーロッパの中心にある国です。その地理的な有利性のため、歴史上さまざまな国の侵略を受けてきました。そのため、小国どうし隣りのベルギーやルクセンブルクと密接に協力してきました。そして、その 3 か国は「ベネルクス三国」と呼ばれ、大きな国に対抗してきました。最近ではヨーロッパ連合（EU）の中心国のひとつとしてヨーロッパの中でも大きな発言力をもっています。

(4) オランダの地形

過去何世紀にもわたって水と戦ってきたオランダの土地の特徴は、国土の 4 分の 1 が海面下にあることです。オランダで最も高い所は、オランダとドイツ、ベルギーの 3 国の国境が交わったところで、ドリーランデンプント (Drielandenpunt) と呼ばれ標高



は 322.5 m です。

オランダの土地は、3つの川（マース川、スヘルデ川、ライン川）によって運ばれてきた土砂が堆積してできた三角州の上にあります。約 700 年も前からライン川河口の入り江や遠浅の海に堤防を築き、中の海の水をくみ出しては陸に変える大工事を行い、牧草地や畑を大幅に増やしてきました。現在、全国土の約半分が干拓地（ポルダー）です。また、洪水などの水害から土地を守るために何度も干拓や堤防建設、運河建設が自然環境との調和を図りながら行われてきました。これらの努力によって、海面下でも生活できる地形を造り上げたのです。



(5) ロッテルダム

オランダには12の州があり、ロッテルダム市はザウト・ホラント州に属します。州都ではありませんが、首都アムステルダムに次ぐ第2番目に大きな都市です。ロッテルダムは北緯52度、東経4度に位置しています。ロッテ川の小さな漁村だったロッテルダムは、ドイツと結ぶライン川（マース川）下流にあったため、昔から漁港として栄えました。さらに、新マース川の川岸を埋め立てて造られた「ユーロポート」（ヨーロッパの港）という大きな港ができたことによって、急速に発展しました。ユーロポートは、欧州連合の玄関口であり、世界有数の貨物取り引きが多い港です。そして、ロッテルダムはヨーロッパ最大の港の都市として有名です。

<州と州都>

州	州都
フローニンゲン	フローニンゲン
フリースランド	レーワルデン
ドレンテ	アッセン
ノールト・ホラント	ハーレム
オーバーアイセル	ズヴォレ
フレーボラント	レリースタット
ヘルダーラント	アルンヘム
ユトレヒト	ユトレヒト
ザウト・ホラント	デン・ハーグ
ゼーラント	ミデルブルフ
ノールト・ブラバント	デン・ボス
リンブルク	マーストリヒト

また、第二次世界大戦中の1940年5月14日の爆撃によって、港湾施設・家・工場・店・ホテル・教会・病院・学校・銀行劇場などたくさんの建物が破壊されたため、古い建物がほとんどない近代的な都市です。戦争で被害を受けたオランダの他の都市は昔の町並みを忠実に再現したのですが、ロッテルダムだけは思い切った近代化の道を選びました。



[ユーロマスト][心臓を失った男]



[1982年, 立方体住宅(キューブハウス)]



[1996年, エラスムス橋]

2, オランダの暮らし

(1) 住宅

オランダの住宅は、大きく分けて、「フラット」と呼ばれるアパート・マンション形式の住まいと、「ローハウス」と呼ばれる長屋タイプ、そして、一戸建ての3種類に分かれます。どの家も、家族が集まって食事や休息をとる居間（リビングルーム）が1つと、家族に応じて寝室（ベッドルーム）がいくつかあります。また、セントラルヒーティング用のボイラーが有り、寒い冬でも部屋の温度を一定に保ってくれます。一戸建てやローハウスなどの庭付きの家では、きれいに庭を手入れし、光を取り入れるために大きくしたガラス窓も、外からきれいに見えるように、いつも掃除を欠かしません。

オランダには、運河に家を浮かべて生活している人もいます。その家を、ボートハウスと呼んでいます。



[フラット]



[ローハウス]



[ボートハウス]

(2) 食べ物

オランダで有名な食べ物といえば、チーズなどの乳製品やハム・ソーセージなどの肉類です。さらに、野菜や果物の温室栽培も広がり、アメリカや南ヨーロッパからの輸入も多く、一年中新鮮な物が手に入ります。その上魚介類も豊富で、ヨーロッパの中では新鮮なものがよく手に入る方です。オランダの家庭料理には、このような素材をふんだんに利用した物が多くあります。

<伝統的な家庭料理>

- ・スタンポット：マッシュポテトに、ゆでた青野菜とソーセージまたはベーコンを混ぜ込んだ料理。

<オランダ人に好まれている食べ物>

- ・ブローチェ：丸パンやロールパンにいろいろなものをはさんだサンドイッチ。ハムやチーズ、コロッケ、野菜、ソーセージ、ハーリングなど中身はさまざま。
- ・フリッツ：フライドポテト。マヨネーズやケチャップ、ピーナッツソースで食べる。
- ・ハーリング：生にしんのこと。春から夏にかけて街角の屋台でも売られる。たまねぎのみじん切りをつけてそのまま食べるか、ブローチェにして食べる。
- ・オリボーレン：オランダ人がお正月に食べるレーズン入りの揚げパン。粉砂糖をふりかけて食べる。

(3) 宗教

オランダはキリスト教の国ですが、最近では若い人々の間で無宗教の人が増えたり、ちがう宗教の国（モロッコ、トルコ、インドネシア、スリナム）の人々が移り住んだりして、その割合も大きく変化してきています。

オランダでは、人々の思想や考え方が異なります。それによって、社会的な派閥（グループ）ができあがっています。例えば、派閥によって読む新聞が違ったり、支持する政党が異なったり、通わせる子どもの学校にも違いが見られます。

(4) オランダ人の一年

オランダのカレンダーを見ると、日本とはずいぶん休日が異なっていることが分かります。それは、キリスト教に関係した祝日が多いからです。

この他に学校には学校の長期休業があります。このような祝日や子どもの学校の休みを使って、3週間から6週間ぐらい旅行に出たり、キャンプに行くといったバカンスをとります。また、日没の遅い夏の夕方、4日間にわたって歩く行事もあり、子どもから大人まで参加します。12月5日のシントニコラス祭は、子どもたちが心待ちにしているお祭りです。そして、友だちや家族、親せきの誕生会もオランダの人々の大切な行事の一つです。

オランダの祝祭日と記念日 (2004年)

1月1日	: 元旦
☆4月9日	: 聖金曜日
☆4月11,12日	: 復活祭(イースター)
4月30日	: 女王誕生日
5月4日	: 戦没者慰霊日
5月5日	: 解放記念日
☆5月5,6日	: キリスト昇天祭
☆5月30,31日	: 聖霊降臨祭
12月25,26日	: クリスマス

(☆は年によって日にちが変わります。)



[アールスメアの花パレード]

4月の春と9月の秋に、多くの町で花パレードが催されます。毎年テーマがあり、2004年のアールスメアは「ファンタジー」。花で飾られた山車や衣装を着た人、鼓笛隊のパレードと、町は朝から華やかになります。



[歩け歩け大会]

日没が遅くなる7月、オランダ各地で「歩け歩け大会」が催されます。4日間で20-40km程を家族や友達、先生と歩きます。



[ズワルト・ピットのいたずら]



[シントニコラス祭]



11月半ば、シントニコラスはスペインから蒸気船に乗って従者ズワルト・ピットと共にオランダに到着します。このイベントはオランダ各地で同時期に行われ、この後各地の学校などにシントニコラスが訪れます。子供達に、この1年間かしく過ごせたかどうかを尋ね、よい子にはご褒美が与えられますが、悪い子はズワルト・ピットの麻袋に入れられてスペインに連れて行かれるということです。

また、その前夜にはズワルト・ピットが子供の部屋にやって来て遊び回り、部屋中をちらかして帰ります。翌朝、子供達はちらかった部屋をきれいに片付けなければいけません。

12月25日には、これとは別にサンタクロースもやって来るので、オランダの子供達は年に2回サンタさんの楽しみを味わえます。

3, オランダの学校

(1) いろいろな学校

オランダには、思想や教育方針等によって非常にたくさんの種類の学校があります。義務教育においても、例えばモンテッソリーや自由学校などといった特別な教授法の学校、またはプロテスタントやカトリック、イスラムやヒンドゥーといった宗教ごとの小学校もあります。通学区域などの規則は全くないので、保護者は子供にどの教育を受けさせるかを選び通学させます。どの学校でも、5歳から16歳の児童生徒には完全義務教育が適用され、この間の教育は原則として無料です。

①保育園

満2才から入園できます。週に2～3回程度の通園です。「子どもの世話は、親がするもの」という考えが一般的ですので、午前だけ・午後だけというものが多ようです。(通園している時は、親はパートタイムに出かけ、それ以外は子どもの面倒をちゃんと見るということです。)

②幼稚園

オランダの義務教育は、5歳から始まります。以前は幼稚園と小学校は別のものでしたが、十数年前より「幼稚園から小学校への移行をスムーズにする」ために、幼稚園と小学校の統合をしました。ですから、幼稚園とはいっても「小学校の幼稚園部」といった方がいいかもしれません。5歳から通学義務がありますが、4歳から入園することができます。

オランダには「入園式・入学式」「卒園式・卒業式」といったものはなく、誕生日を過ぎると入園します。そのため、就学開始時期はみんなばらばらです。4歳で幼稚園に通い始め、5歳からは義務教育としての幼稚園生活が2年間行われます。

③小学校

日本風に言えば、1年生から8年生までです。1・2年生には、4才～6才の児童がいます。(就学開始が一定ではないことと、落第もあるからです。)その後、8学年を過ごし、夏休み前に小学校の課程を修了します。児童の能力に応じて、この期間を短縮もできますし、小学校通学期間を2年間まで延長できます。

オランダの教育制度としてユニークなのは、「それぞれの学校が自由に運営する」という点です。国は「子どもに最低限これだけは教える」という決まりを作っていますが、それをいつ・どうやって教えるかはまったく自由です。各学校は、それぞれに教育方針を決めて教授法を開発し特色をだしています。

カリキュラムの自由さと同様に、始業時刻や長期休みのとり方も学校によって自由に決めます。年間の授業数は決められていますが、何時に始めて何時に終わるか、また、春休みをいつからにするか・・・というのは、その学校の裁量に任されています。(夏休みが始まる日は別で、これだけは国が3つに分けて決めています。なぜかという、オランダ中の学校が一斉に休みになると、バカンスに出かける家族で交通機関などが渋滞しパニックになるからだそうです。)

このように、学校それぞれで違いますので、親にとっては学校選びは重要なこととなります。学校側としても、生徒が集まらなければ廃校に追いやられますので「うちではこんな教育をしています」と、懸命にアピールしなくてはなりません。

④全国共通学力テスト（C i t o）と 上級・中級教育

小学校の最終学年8年生（日本の6年生）の2月に、子どもたちは全国共通学力テスト（C i o t : シト）を受けます。その結果と日頃の成績をもとに、本人と保護者、教師が話し合い、その後の中学校を決めます。日本と大きく異なるのは、ここで4つの課程に別れることです。

a. 大学進学課程（VWO）	6年制
b. 上級一般課程（HAVO）	5年制
c. 中級予備職業学校課程（VMBO）	4年制（1999年8月1日より導入）
d. 職業実習教育課程（PRO/SVO）	6年制

どの学校も入試は基本的にありません。しかし、行きたいところに誰もが行けるわけではなく、小学校の成績とシトテストの結果などで進路がほぼ決まります。a. b. cの中学では最初の1・2年間は観察期間とし、その後に進路変更もできるようになっています。d. 職業実習教育課程に進んだ生徒は、6年間の実習後社会人になるか、更に成人向け教育課程で学んだ後社会に出ます。

⑤大学・上級職業学校・地区職業教育センター

どの課程へ進んでも、中等教育の最初2年間は基礎課程です。その後、3種類の課程に別れます。a. 大学進学課程（VWO）の終了間近には、全国共通の卒業試験があります。その結果、晴れて卒業となったものには大学の入学資格が与えられます。大学にも入試はありませんが、希望者が多すぎる場合は、抽選（?!）もあるそうです。

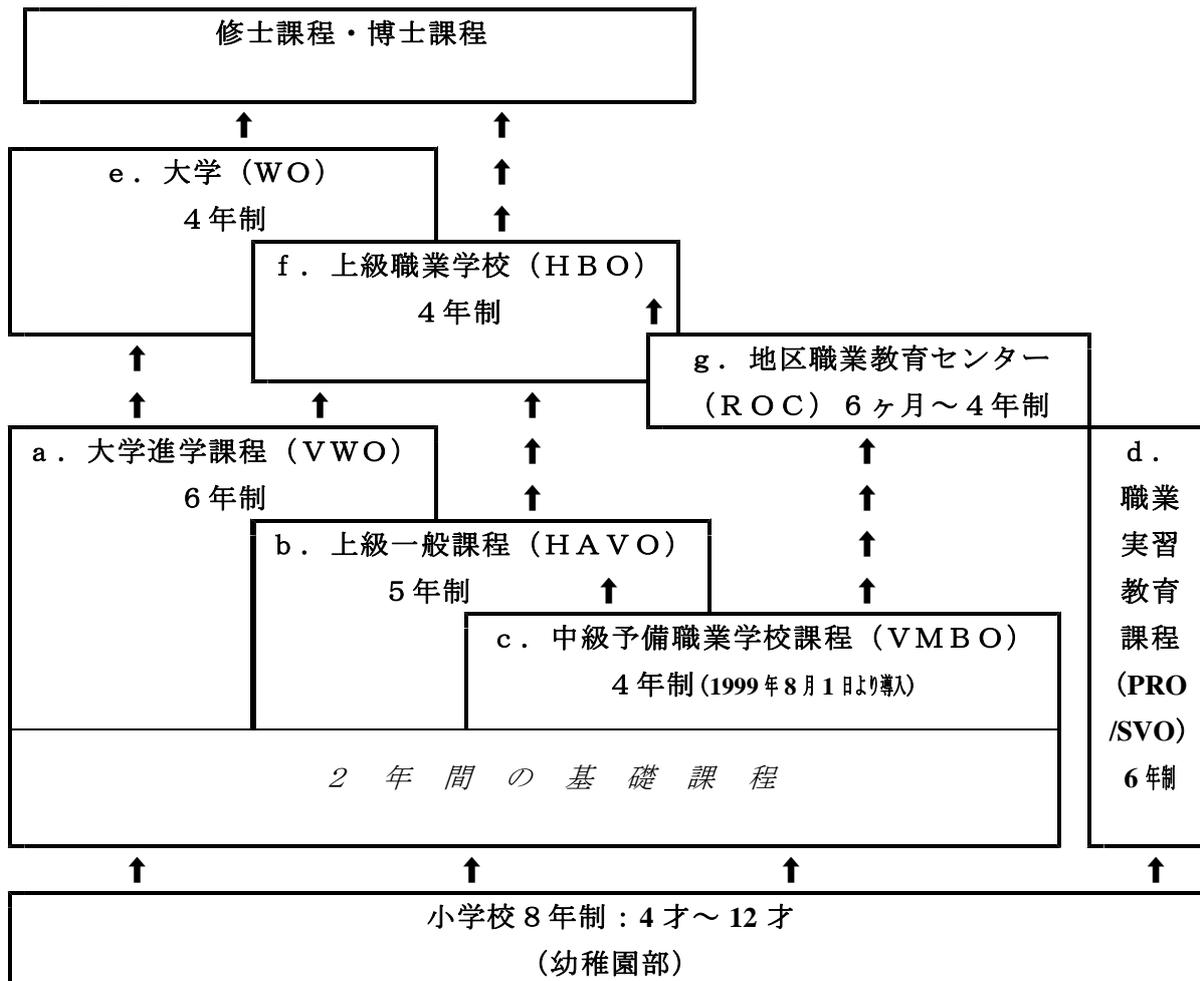
e. 大学（WO）	4年制
f. 上級職業学校（HBO）	4年制
g. 地区職業教育センター（ROC）	6ヶ月～4年制

a. 大学進学課程（VWO）の生徒は、e. 大学（WO）か f. 上級職業学校（HBO）に進みます。また、b. 上級一般課程（HAVO）の生徒は f. 上級職業学校（HBO）のみに進みます。上級職業学校（HBO）へ進んだ学生は、学校教師・上級看護婦・技術者の資格を得て社会人となります。そして、c. 中級予備職業学校課程（VMBO）の生徒は、b. 上級一般課程（HAVO）か地区職業教育センター（ROC）に進みます。そこで、警察官・看護婦・美容師などの資格を得て社会人になります。

e. 大学（WO）に進んだ一部の生徒は、更に修士課程・博士課程に進みます。

特筆すべきは、オランダ人には「何が何でも大学へ」という考え方がないことです。オランダには大学とよばれるものが約13校ありますが、本当に学問が好きでその道を追究したい思いがあるものだけが進学します。オランダは、日本以上に「資格社会」です。「いい就職をしたい」ということであれば、上級職業学校（HBO）へ行き実践的なことを学んだ方が即戦力に優れており、企業からも歓迎されている点に注目すべきでしょう。

(2) 教育システム



(3) 現地校の様子



[ヒルデガルド小学校：1年生]

国語から算数の授業に移る時チャイムはなく、先生がギターを弾き、みんなで歌を歌ったり、目を閉じて先生の歌を聞いたりしながら、気持ちをきりかえていました。授業の始めと終わりの挨拶はありません。



[セント・ローレンスカレッジ：1年生]

数学の授業風景。ほとんどの教科がグループ学習でした。数学では、各グループの学習内容は様々で、生徒はお互いに教えあい、教師は単元テストで生徒の学力を確認するというものでした。(この学校はHAVOのための授業内容です。)

4, ロッテルダム日本人学校

(1) 国際社会にたくましく生きる児童生徒の育成

～グローバルマインドを持った「行動する国際人」の育成を目指して～

* 「行動する国際人」・・・自分の頭で考え、発言し、行動する。

そして、その結果に対して責任が取れる人。

(ロッテルダム日本人学校研究主題)



[ロッテルダム日本人学校・全校児童生徒]

ロッテルダム日本人学校は、小中併設校です。小学1年生から中学3年生まで、各学年1クラスで全9クラスと、とてもアットホームな雰囲気の学校です。そして、1棟の校舎に、アメリカン・インターナショナルスクールとロッテルダム日本人学校があり、体育館や家庭科室、ランチルームは共同で使用しています。日本人学校は、オランダにあり、かつアメリカン・スクールに通う世界各国の児童生徒達と毎日接する



[学校周辺のゴミ拾い]



[文化祭のチラシ配り]



[調理実習の食材購入]



[セント・ローレンスカレッジ交流]



[老人ホーム訪問]

[折り紙]



[世界の花万博フロリアード]

[太鼓演奏：2002年]

ことのできる、非常に恵まれた環境です。このような環境のもと、上記研究主題の達成に向けて、地域のゴミ拾い活動、文化祭のチラシ配りや、現地小学校やカレッジ、ライデン大学生との交流、アメリカン・スクールの授業見学や交流、そして、現地老人ホーム訪問などを行っています。

小中併設ということを活かし、生徒会企画による小中交流活動と共に、アメリカン・スクールと日本人学校が合同で行う小学部クラブ活動のお手伝いも、両校中学部の生徒が行います。

また、中学部で取り組んでいる太鼓演奏では、フロリアードや、「小原流生け花」記念式典、ロッテルダム美術館での日本文化紹介など、度々招待を受けて伝統文化を披露しています。

(2) 中学部 セントローレンス校との交流

①目的

- ・セントローレンスカレッジ校生徒との交流を通して、現地理解を深め国際感覚を養う。
- ・積極的にコミュニケーションを図ろうとする態度を育てる。

②セントローレンスカレッジ校の概要

セントローレンスカレッジ校 (Sint-Laurenscollege) は、本校とグランドをはさんで隣接しており、徒歩10分のところにある中高一貫教育の学校である。主に工学部、経済学部への進学を目指している生徒(12歳～18歳)が学んでいる。1学年にはおよそ約160名在籍しており、全校生徒数は953名、教員数は68名の規模である。

③. 実施計画

計5回交流を行う

* ()は会場校：(JSR) 日本人校, (SLC) セント・ローレンス

第1回目： 5月13日(木)(JSR) セントローレンスカレッジ校Q&A

第2回目： 5月24日(月)(JSR) レクリエーション交流[E-mailを利用]

第3回目： 9月27日(月)(SLC) 理科(生物のビデオ)

第4回目： '05 1月24日(月)(JSR) 音楽(太鼓)

第5回目： '05 2月14日(月)(SLC) 会食

④. 交流内容

[第1回目]

JSR生徒のSLCに関する質問19項目を送った。そして、その回答をSLC生徒代表2名が、パワーポイントを使い説明した。その後自由に質問する時間を設けた。

生徒の感想：

最初の方の説明は、結構分かりました。でも、後の方になってくると、だんだん何を言ってくれているのか分からなくなってきて、少し困りました。最後の質問のところでは、聞きたいけど、聞きたくない・・・という気持ちがゴチャマゼになった感じでした。最後の最後に、紙を見ながらだけ質問できました。でも、すごく小さくて蚊の鳴くような声だったので、少し後悔しています。「もうちょっと大きな声で言えば良かったなあ。」と思いました。でも、これを生かしてこれからもう少し、もっと大きな声で相手に伝えられるようにしたいと思いました。[中2女子]

[第2回目]

Eメールであらかじめ生徒同士が連絡を取り、交流当日、SLC生徒とペアになり、オランダ生活の悩みなどの助言を聞いた。その後、「ジャンケン」と「ユビスマ」を説明し、それぞれゲームをして楽しんだ。

第2回交流のポイントの一つは、事前にEメールで交流相手と連絡を取り合い、初めて会ったときの緊張感を和らげることだった。Eメール相手ではない生徒達が来校するというハプニングもあったが、それに動じることなく順調に交流できた。Eメールを利用したことで日本人学校生徒側の緊張感が和らぎ、交流を順調に進める上で大変効果的だった。



[「ユビスマ」説明中]

[第3回目]

S L C生徒と4～5人のグループになり、動物の生態ビデオを見た。その後、ビデオの内容についてお互いに質問しあい、ビデオで語られていたことをメモにまとめた。

グループのJ S RとS L Cの生徒が、お互いにビデオの内容について質問しあい、それに答えながらレポートを作成していた。英単語の綴りが難しいようだった。

[第4回目]

J S R生徒が「マース河太鼓」の演奏を披露した後、S L C生徒とペアになり、その曲の一部分を教えた。最後に、J S RとS L C生徒全員で「マース河太鼓」の練習部分の音あわせをした。

くじ引きでペアになり、相手に自分の太鼓のパートを、思い思いの方法で伝えた。

[第5回目]

両校生徒が2名ずつで、自国の行事・食べ物・衣服・音楽・スポーツ・学校・休日の過ごし方を調べ、それを伝えあった。そして、教えてもらったことをグループごとに発表した。その後、全員一つのテーブルで会食をした。

生徒の感想：

私は、今回のS L C交流が最後の交流でした。何回も交流してきましたが、やっぱり相手に英語で何かを伝えることは、私にとって難しく大変なことです。しかし、回数を重ねていくうちに「相手の目を見て話すこと」や、「分かる単語などを並べて言ってみよう！」というように積極的に交流できるようになりました。今回の交流では、一緒に食事などもできて、たくさんコミュニケーションを取ることができました。交流相手の人も、とても明るくて優しい人だったので楽しく交流できました。セントローレンス校の人達と交流ができて、本当に楽しく良い経験になりました。[中3女子]

5. 成果と今後の課題

毎年、4回前後セントローレンス校と交流を重ねてきた結果、生徒達はオランダの生徒達と共に過ごすことを楽しみに待つようになった。年齢が近いことと、お互い英語を第二言語とする点で、コミュニケーションをとる際の心の壁を崩しやすかったという理由が挙げられるのだろう。今後更に交流を重ね、その場にいる日本人が自分一人だけの場合でも、自信を持って楽しく過ごせるようになることが課題である。

- 参考文献
- ・ 伸びゆくロッテルダム (ロッテルダム日本人学校)
 - ・ オランダ暮らしの便利帖 (在オランダ日本商工会議所)
 - ・ ヨーロッパカルチャーガイド「オランダ 何でもありの王国へようこそ」(トラベルジャーナル)
 - ・ Het voortgezet onderwijs (Ministerie van Onderwijs, Cultuur en Wetenschappen)
 - ・ Voortgezet Onderwijs in Rotterdam (SWSL Onderwijs Voorlichting)
 - ・ Basisonderwijs in Rotterdam (SWSL Onderwijs Voorlichting)



[グループごとの活動]



[両校生徒による「マース河太鼓」]



[カップラーメン試食中]